6 7 8 9

6.《昆虫演奏会（トンボ、バッタ、テントウ虫）》
1970年　今治市吉海郷土文化センター蔵
7.《家族》 制作年不詳　愛媛県美術館蔵
8.《魚　メバル》制作年不詳　今治市吉海郷土文化センター蔵
9.《猿の家族》 制作年不詳　今治市吉海郷土文化センター蔵

野間仁根 略歴

1901年　明治34年　2月5日、愛媛県今治沖の大島、越智郡津倉村（現吉海町）に生まれる。
1919年　大正　8年　上京。
1920年　大正　9年　川端画学校を経て、4月に東京美術学校（現東京藝術大学）に入学。
1924年　大正13年　童顔社展をはじめ、中央美術展、光風会展などに出品。
第1回個展開催。
二科展で《静物》が初入選。以後、毎回出品。
1925年　大正14年　東京美術学校卒業。
1928年　昭和　3年　第15回二科展で《夜の床》が樗牛賞受賞。
1929年　昭和　4年　第16回二科展で《ぜ　ふうるむうん》が二科賞受賞。
1931年　昭和　6年　佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
1933年　昭和　8年　二科会会員となる。
1937年　昭和12年　大阪朝日新聞夕刊、坪田壌治作「三平チャンと善太君」に挿絵を描く。
1938年　昭和13年　熊谷守一と作品発表二人展（日動画廊・東京）を開催。
1944年　昭和19年　郷里（津倉村）に疎開。二科会解散。
1945年　昭和20年　再建二科会に審査員として参加。
1952年　昭和27年　日展改組に審査員として出席。
毎日新聞連載、石川達三作「青色革命」に挿絵を描く。
1955年　昭和30年　二科会脱会。鈴木信太郎らと一陽会を結成し第1回展開催。
1967年　昭和42年　田崎広助、鈴木信太郎と三人展開催。
1979年　昭和54年　12月30日 78歳で永眠。

野間仁根展

NOMA HITONE

色彩踊る幻想の世界へ

2016年
9月18日（日）～11月20日（日）

休館日：月・火曜日（祝日は開館）
開館時間：午前9：30～午後5：00（入館は午後4：45まで）
主催：ミウラート・ヴィレッジ（三浦美術館）
協賛：株式会社ミウラ
後援：愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、愛媛新聞社、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛
協力：愛媛県美術館、今治市吉海郷土文化センター

表紙作品：《来島水道》　制作年不詳　愛媛県美術館蔵

MIURART VILLAGE MIURART

野間仁根展 NOMA HITONE 色彩踊る幻想の世界へ

2016年 **9月18日（日）～11月20日（日）**

休館日：月・火曜日（祝日は開館）
開館時間：午前9：30～午後5：00（入館は午後4：45まで）
入場料：一般800円（前売り600円）、高大生300円、中学生以下無料
※65歳以上の方は年齢確認ができるものをご提示いただければ前売り料金となります。
※障害者手帳をご持参の一般の方はご本人と同伴者1名様まで前売り料金となります。

次回展覧会

M. コレクション展Ⅶ
2016年12月4日（日）～2017年2月5日（日）

MIURART VILLAGE MIURART
ミウラート・ヴィレッジ（三浦美術館）
〒799-2651愛媛県松山市堀江町1165-1
TEL089-978-6838　FAX089-978-0323
http://www.miuraz.co.jp/miurart
E-mail:miurart@miuraz.co.jp

駐車場：30台と 土・日・祝日は臨時駐車場（三浦工業福角駐車場約250台）をご利用できます。

アクセス
◆JR松山駅より市内電車にて松山市駅へ、伊予鉄バス北条行き「内宮バス停」、又は「花見橋バス停」下車 徒歩約10分
◆松山空港より約11km　◆松山I.C.より約16km　◆今治I.C.より約35km

野間仁根展

色彩踊る
幻想の世界へ
NOMA HITONE

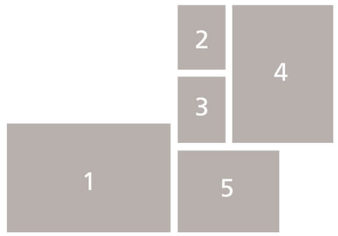
このたび、ミウラート・ヴィレッジでは「野間仁根展～色彩踊る幻想の世界へ」を開催いたします。

野間仁根は1901年にしまなみ海道の島々の一つである大島の吉海町に生まれました。島で生まれ育った野間は、温和で人当たりがよく、明るく気取らず誰からも好かれる存在でした。画業に於ては穏やかな瀬戸内海や山、動植物に囲まれて、後の絵に見られるような独特な観察眼、色鮮やかな色彩を操る感覚を育んでいきました。

1919年、母親と上京した野間は叔父の勧めで美術学校を受験することになり、川端画学校に入ります。わずか2ヶ月で受験を迎えることになりましたが、見事に東京美術学校に合格し皆を驚かせました。

卒業後は1928年に第15回二科展で《夜の床》が樗牛賞を、翌年第16回展で《ぜ　ふうるむうん》が二科賞を受賞、その名が広く知られる事となり、その後画家として素晴らしいキャリアを積み上げていきました。そんな野間が、超俗の孤高の画家・熊谷守一（当館で2014年4月27日～6月15日開催）の再起の手助けをすることになります。1929年、野間が研修生として学んでいた二科技塾の講師に熊谷守一がおり、野間は熊谷の描く作品だけでなく人間性にも憧れていました。野間は熊谷と親交を深め、1938年に熊谷と二人展を開催します。これが熊谷にとって人生初の展覧会となり、困窮していた生活から抜け出すきっかけとなりました。一方野間もこの展覧会開催によって熊谷から多大な影響を受け、「何より自身の感興に従い、自由に思うがままに」という信条へと繋がるものになったと推測されます。

今展では、瀬戸内海の風景や「釣り名人」だった呑馬先生ならではのモチーフである魚、動植物の幻想の世界を描いた作品等、約40点を展示いたします。是非この機会に酒を愛し、釣りを愛し、自然界の万物を愛した野間仁根の色彩踊る自由奔放な作品をご堪能ください。



1.《魔法の森》1934年　愛媛県美術館蔵
2.《ぜ　ふうるむうん》1929年　愛媛県美術館蔵
3.《浜木綿》制作年不詳　愛媛県美術館蔵
4.《睡れる旅人》1933年　愛媛県美術館蔵
5.《常石の眺望》1973年　個人蔵